

うんこ例文 コンテスト 結果発表

in うんこ展 テーマ 「夏」

うんこ漢字ドリル作者
古屋先生と選んだぞい!



優秀賞

去年の夏、うんこ君と両思いになれた。

ニックネーム **yuuna**さん ねんれい 8さい

「夏」を課題漢字とした場合、多くの方が「今年の夏は～」というような形で「夏」の字を使います。この例文では「去年の夏」にしており、それだけでもまず新鮮です。語られている「両思いになれた」という、何とも甘酸っぱいテーマ。うんこはこんなきゅんきゅんするテーマの例文にも使用可能なのですね。



優秀賞

夏期講習でうんこの出し方を学ぶ。

ニックネーム **りんこ**さん ねんれい 16さい

わざわざ夏期講習をとってまで「うんこの出し方」を学ぼうという、学習意欲の高さ、志の高さに感銘を受けました。うんこの出し方のような当たり前とされることにも「本当にそうだろうか」と一度考える余地を持ってみる。その態度は本当に素晴らしいことです。きっとこれからも、人生において様々なことを学べることでしょう。



最優秀賞

夏はうんこがうごく。

ニックネーム **うた**さん ねんれい 7さい

深夜に声を出して笑いました。この短い文字数と衝撃的な内容によって、すさまじい切れ味が生まれています。まさに日本刀のような切れ味の、極めて見事なうんこ例文です。夏＝うんこが動く。という発想がとにかくすごいですね。私も出来る自信がありません。これからうんこ例文を制作していく上でも大変参考になりました。ありがとうございます。



うんこ例文 コンテスト 結果発表

in うんこ展 テーマ 「合」

うんこ漢字ドリル作者
古屋先生と選んだぞい！



優秀賞

うんことうんこをつなぎ**合**わせて道路を作った。

ニックネーム はるさん ねんれい 8さい

うんこを使って何かを作る、といううんこ例文は多々ありますが、「道路を作る」とは。おそらくふだんレゴやおもちゃやダンボールなどを使って、工作をしているのでしょう。だからこそ出てくる発想、ワードだと思います。まだまだいくらでもパターンはあるのだなあと気付かされました。



優秀賞

彼女とうんこの相性が**合**うので結婚します。

ニックネーム miZAIさん ねんれい 39さい

とにかく、作者のmiZAIさんが39歳でこの例文を書いているという事実。その事実には、いや、その「魂」に、私は惜しみない称賛をおくりたいです。miZAIさんが独身であるかどうかによっても、作品の印象が大きく左右されてくると思います。



最優秀賞

私と父の意見は、うんこを家族に迎えるということで**合**致した。

ニックネーム しょこたんぺっさん ねんれい 18さい

まさかうんこ例文でここまで奥深い「家族ドラマ」が表現できるとは思いませんでした。「うんこ」と「合致」という語だけを起点に、このような状況を描き出せる手腕は、尋常ではありません。うんこ例文には、作者のバックグラウンドやこれまで見てきたもの、好みなど、様々な要素が反映されうるものなのです。同じうんこという語を使っても、個性やオリジナリティを持つ人は、やはり独自の世界を作り出すわけですね。



うんこ例文 コンテスト 結果発表

in うんこ展 テーマ 「宿」

うんこ漢字ドリル作者
古屋先生と選んだぞい！

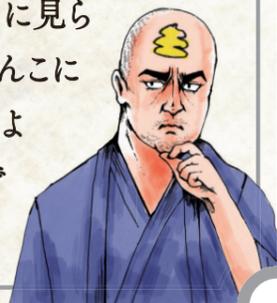


優秀賞

ぼくのかわりにうんこに**宿**題をさせる。

ニックネーム **はおはおさん** ねんれい 7さい

うんこを「ペットのように飼う」パターンや、うんこを擬人化して「友人として遊ぶ」などのパターンはたまに見られますが、なんと、「うんこを使役する」という発想には驚かされました。確かに、擬人化すると、自然とうんこに対してある種の「人権」的なものも付随して発生してしまうものです。が、7歳の作者には良くも悪くもそのような既成概念は通じません。「めんどくさいものを肩代わりしてくれる便利な存在」であっても不思議ではないわけですね。発想というのは知らず知らず制限されてしまっているものなのだ、と教えられました。



優秀賞

うんこを**宿**に泊めるには追加料金がかかります。

ニックネーム **ウンコマンさん** ねんれい 11さい

「宿」の字を使用するということで、やはり「宿に泊まる」または「宿す」という用法が多く見られました。そんな中で「うんこそのものを宿に泊める」という発想はフレッシュなものでした。そして、追加料金さえ払えば泊めることが可能なのか。という驚きもありました。技巧的なのは「うんこが宿に泊まる」ではなく「うんこを宿に泊める」としたことです。これにより、そこに「うんこを同伴する第三者」の存在が立ち上がり、人物相関図が一気に豊かになるわけです。



最優秀賞

先生が、あちゃこちゃゆうから、**宿**題でうんこを5兆こもらす。

ニックネーム **れいのうんこさん** ねんれい 8さい

いわゆる学習書の例文らしくはないし、文の体裁としては乱れが目立ちます。しかしそれを補って余りある、自由さ、そして溢れんばかりのパワーはどうでしょうか。宿題でうんこを5兆個もらす、とはどういうことなのか。この文に「宿題で」という語は必要なのか。細かい理屈を吹き飛ばす勢いと、ぎりぎりのバランスで「意味がうっすらわかる」状態を保っているセンス。そして何よりも「5兆個」にリスペクトです。「多い数」と言えば5兆個。これからはうんこ例文で多い数を表す時、「5兆個」以外使わないようにしようと思いました。

